

## 琉球の服装について 一奄美大島・喜界島の祝女の服装一

大谷女子短大 祝服 ○橋本千栄子

琉球大 教育 渡口 文子

目的 本来 地理的、史的、気候風土の関係から見て奄美諸島から沖縄諸島、宮古、八重山諸島へと連なる琉球弧の島々は、広義では同一文化圏と解されている。しかし、10年近い琉球文化圏の衣服調査より推察すると、細部において各島毎に特有の民俗文化を形成している。これは、それらの島々がもともと孤島であったことが原因していると考えられる。

そのため 琉球に古くから伝えられた民俗宗教の代表とされている祝女の衣裳を検討し、その実態を把握しようとした。

方法 琉球文化圏の一環の調査計画の内、前報は久米島で行なわれている六月のマターの祝女の衣裳を中心に述べた。本報では奄美大島・喜界島に伝わる祝女の衣裳について調査を行なった。

結果 今回の調査においては琉球王朝時代に 間得大君以下中央、地方という組織のもとに統一されていた祝女の衣裳を明らかにしたもので、この地方には地域的な特殊性が見られた。これは地域、祭祀等によって 衣裳に何等かの意味を与えたものと考えられる。